

「フリーランス」

2020年5月に内閣官房日本経済再生総合事務局より「フリーランス実態調査結果」が発表されました。今回はその「フリーランス」について解説します。

1. 「フリーランス」とは

「フリーランス」の語源は中世ヨーロッパ時代の「王侯貴族に属さない傭兵 (freelance)」を指す言葉だったと言われています。このフリーランスという言葉は、日本では確固たるイメージが固まっておらず、一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会ではフリーランスを広義の意味として捉え「特定の企業や団体、組織に専従しない独立した形態で、自身の専門知識やスキルを提供して対価を得る人」と定義しています。また、広義のフリーランスには、大きく分けて独立系フリーランスと副業系フリーランスがあります。企業や組織に属さず雇用関係を持たない独立系フリーランスには、法人経営者（法人成りしている人）、個人事業主、すきまワーカー（開業届未提出の個人）がいて、大抵が業務委託契約や準委託契約で仕事を請け負っています。一方、副業系フリーランスは、基本的に主となる企業や組織に雇用され、すきま時間を使って個人の名前で仕事をしています。フリーランスに多い仕事としては、エンジニア、デザイナー、クリエイター、ライター、編集者などが挙げられます。内閣官房の最新試算では、2020年の広義のフリーランス人口は462万人とされています（図表）。

2. フリーランスを選ぶ理由

フリーランスを選ぶ理由としては、(1)実力に見合った収入が得られること、(2)リモートワークの普及などにより働く場所や時間の融通が利くこと、(3)定年がなく気力や体力、クライアントの要望に応えるスキルを維持できれば長期間現役で働き続けられること、(4)クライアントが満足する仕事を行えば評価が上がるなど仕事への充実感があることなどが考えられます。

3. 今後のフリーランス

独立系フリーランスになることを考えた場合、正社員の安定した収入や生活を手放すというイメージが強いかもしれませんが、自分を信頼してくれたクライアントと一緒に仕事を完成させるという達成感を得ることができます。「自分らしさをもっと活かした仕事をしたい」と思ったらフリーランスを選択することも働き方のひとつです。リモートワークやテレワークなどによる場所や時間にとらわれない働き方や定年退職後のセカンドキャリアなどを考えると、今後もフリーランスとなる人が増えていくと考えられます。

図表 フリーランスの試算人数（内閣官房による統一調査と類似調査との比較）

	内閣官房による統一調査 (関係省庁連携)	内閣府	中小企業庁	厚生労働省
	「フリーランス」	「フリーランス相当」	「フリーランス」	「雇用類似の働き方の者」
対 象	①自身で事業等を営んでいる ②従業員を雇用していない ③実店舗を持たない ④農林漁業従事者ではない ※法人の経営者を含む	①自身で事業等を営んでいる ②従業員を雇用していない ③実店舗を持たない ④農林漁業従事者ではない ※法人の経営者を含む	①自身で事業等を営んでいる ②従業員を雇用していない ③実店舗を持たない ④農林漁業従事者ではない ※法人の経営者を含む	①自身で事業等を営んでいる ②従業員を常時使用していない ③個人事業主等で店主ではない ④農業や漁業者ではない ⑤業務の委託を受けている ⑥事業者が直接の取引先 ※法人の経営者を含む
フリー ランスの 試算人数	462万人 (本業214万人/副業248万人)	341万人 (本業178万人~228万人/ 副業112万人~163万人) ※なお定義の違いにより306万人 ~341万人と幅をもって推計	472万人 (本業324万人/副業148万人)	367万人 ※①~④に該当する者を試算 したもの
サンプル	144,342人	50,000人	62,415人	18,377人
調査期間	2020年2月10日~3月6日	2019年1月28日~3月4日	2019年1月11日~1月31日	2019年1月15日~2月21日
調査主体	内閣官房 日本経済再生総合事務局	内閣府政策統括官 (経済分析担当)	リクルートワークス研究所	(独)労働政策研究・研修機構

出展：「フリーランス実態調査結果」（令和2年5月内閣官房日本経済再生総合事務局）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/zensedaigata_shakaihoshou/dai7/siryou1.pdf

閑話ひとつ

- ▶最近、約19年間乗ったマイカーを買い替えました（中古車ですが…）。久しぶりに車を買って、しみじみこう感じました。「車って高くなったな〜」
- ▶私が運転免許を取得した約40年前は「エアコン・パワステ・パワーウィンドウ」がマイカーの「三種の神器」でした。当時、これらの装備はオプション扱いだったり上位車種限定だったり、中古車販売ではこの3つ（+カセットステレオの場合も）が付いている車を「フル装備」と呼んでいました。
- ▶以前はオプションだったものが標準装備になり、また、カーナビや自動ブレーキなどの運転支援機能が付加されたことなどもあって今の価格水準になったのだと思いますが、それにしても高くなりすぎ!? かつて「〇〇〇47万円」のCMが話題になった軽自動車も、今では乗り出し200万円オーバーが珍しくありません。
- ▶ボンネットを開けるとエンジン本体の他にはエアクリナーやバッテリーぐらいでエンジンルームはスカスカ、車種によってはスペアタイヤまで入っていた、そんな時代の車が懐かしいです。でも車体が軽くて速かったな〜「かつとび」「街の遊撃手」なんてのもあったな〜 🚗 🚗 (MS)